

教科(科目)	数学 I	単位数	4	学年(コース)	1 学年
使用教科書	東京書籍『数学 I Essence』				
副教材等	なし				

1 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>①基本的な計算を繰り返し練習し、計算力の定着を目指します。</p> <p>②基本的な概念や原理・法則を理解し、繰り返し練習することで、基本的な知識の習得を目指します。</p> <p>③事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度を育成します。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡素・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p>	<p>数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。</p>

4 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査内容の分析 ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査内容の分析 ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 ・ 授業への出席状況 <p>などから、評価します。</p>
<p>評価方法</p> <p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

5 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法
1 学期	1章 数と式 1節 式の計算 1. 文字を使った式 2. 単項式と多項式 3. 加法・減法 4. 乗法 5. 乗法公式 6. 因数分解	・文字を含む式の表し方や見方を理解する。 ・整式の和・差・乗法の計算方法を理解する。 ・乗法公式を利用して、いろいろな整式の乗法ができる。 ・因数分解の公式を利用して、いろいろな式の因数分解ができる。	12	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	2節 実数 1. 実数 2. 根号を含む式の計算	・数の分類、数の集合の包含関係を理解する。 ・絶対値の定義、平方根の定義や性質を理解する。 ・根号を含む式の計算、分母の有理化の方法を理解する。	7	
	1 学期中間考査		1	
	3 節 方程式と不等式 1. 1次方程式 2. 不等式 3. 不等式の性質 4. 不等式の解き方 5. 不等式の利用 6. 2次方程式とその解き方	・方程式とその解の意味、解法を理解する。 ・不等式とその解の意味、不等式の性質を理解する。 ・1次不等式の解法を理解する。 ・不等式を利用していろいろな問題を解ける。 ・課題学習(家庭から出たゴミを処理場に持ち込んだときに支払う料金を不等式を用いて考える) ・2次方程式とその解の意味を理解し、平方根の考え、因数分解、解の公式を用いた解法を理解する。	10	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 1. 関数 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の決定	・関数の概念を理解し、関数のグラフの意味を理解する。 ・2次関数のグラフの性質、平行移動について理解する。 ・2次式の平方完成ができる。 ・2次関数のグラフをかくことができる。 ・グラフに関する条件が与えられたときの2次関数を求めることができる。 ・課題学習(2次関数を用いて、焼きそばの売り上げを最大にする値段設定を考える)	13	
1 学期末考査		1		
2 学期	2節 2次関数の値の変化 1. 最大値・最小値 2. 2次関数と2次方程式 3. 2次関数と2次不等式	・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解する。 ・2次不等式の解の意味を理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	17	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	3章 三角比 1節 鋭角の三角比 1. 鋭角の三角比 2. 三角比の利用 3. 三角比の相互関係	・鋭角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 ・三角比の値を利用して辺の長さを求める方法を理解する。 ・鋭角の三角比の相互関係について理解する。	10	
	2 学期中間考査		1	
	2節 三角比の応用 1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積 4. 三角比と座標 5. 三角比の相互関係 6. 鈍角の三角比と計量	・正弦定理やその利用法を理解する。 ・余弦定理やその利用法を理解する。 ・三角形の面積の求め方を理解する。 ・鈍角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 ・鈍角の三角比の相互関係について理解する。 ・いろいろな図形の計量の問題を解ける。 ・課題学習(円周率を使わずに円の面積を求める方法を考える)	31	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	2 学期末考査		1	
3 学期	4章 集合と論証 1. 集合 2. 命題と集合 3. 命題と証明	・集合の意味や用語、集合間の関係を理解する。 ・命題の真偽や命題と集合の関係を理解する。 ・命題の対偶を利用した証明ができる。	25	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	5章 データの分析 1. データの整理と分析 2. 散らばり 3. 相関関係 4. データにもとづく考え方	・データを整理して図や表に表すことや、代表値を求めることができる。 ・データの散らばり具合の表し方を理解する。 ・相関関係や仮説検定の考え方を理解する。 ・課題学習(インターネット上のデータを活用して、地域の問題点を探り、解決策を考える)	10	
	学年末考査		1	

計 140 時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・定期的に週末課題、単元のまとめ練習プリントを提出してもらいます。
- ・単元ごとに授業ノートを提出してもらいます。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(休業明けに課題テストを実施します。)
- ・定期考査以外にも考査を実施します。

7 授業担当者からの一言

数学Iは高校3年間の数学の基礎となる科目です。ここでしっかりと基礎力を身に付けましょう。数学が得意になるコツは計算の過程を省略せずにきちんと書くこと、繰り返し問題を解き問題に慣れることです。まずは授業中ノートをきちんととることから始めましょう。教科書やプリントで練習問題を解くときは授業の解き方と同じ解き方(真似)をしましょう。解いた後は必ず答え合わせをして、正しくできているか確かめましょう。うまくできないときや、わからないときは遠慮せずに質問してください。

数学は頭で考え、手で身に付ける科目です。たくさん書いて、たくさん解いて、問題が解ける楽しさを味わいましょう。

教科(科目)	数学Ⅱ	単位数	4	学年(コース)	2 学年
使用教科書	数学Ⅱ Essence (東書 数Ⅱ716)				
副教材等	なし				

1 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式、図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 指導の重点

- ①基本的な計算を繰り返し練習し、計算力の定着を目指します。
- ②基本的な概念や原理・法則を理解し、繰り返し練習することで、基本的な知識の習得を目指します。
- ③事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度を育成します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式、図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査内容の分析 ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査内容の分析 ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 ・ 授業への出席状況 などから、評価します。
評価方法	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

令和5年度シラバス（数学）

5 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法
1 学期	1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算 1 3次の乗法公式と因数分解 2 二項定理 3 分数式とその計算	・3次の乗法公式と因数分解の公式について理解し、それらを用いて計算することができる。 ・パスカルの三角形と展開式における各項の係数について考察し、二項定理を用いて、式を展開することができる。	5	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	2節 2次方程式 1 複素数 2 2次方程式	・虚数、複素数について理解し、数を拡張することに興味をもつ。さらに、複素数の計算ができる。 ・すべての2次方程式を解くことができる	4	
	1 学期中間考査		1	
	3 解と係数の関係 4 2次関数のグラフと2次方程式	・2次方程式の解と係数の関係について理解し、与えられた2数を解とする2次方程式を求めることができる。 ・2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフと軸の位置関係を調べることができる。	4	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	3節 高次方程式 1 多項式の除法 2 因数定理 3 高次方程式	・多項式の除法について、商と余りの関係を表すことができる。 ・剰余の定理と因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に関して、それらを利用することができる。 ・高次方程式について理解し、高次方程式を解くことができる。 ・課題学習(レターパックに入れることができる荷物の体積)	7	
	1 学期末考査		1	
2 学期	4節 式と証明 1 等式の証明 2 不等式の証明	・左辺と右辺をそれぞれ計算することで、等式を証明し、論理的な思考力を養う。	6	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	2章 図形と方程式 1節 座標と直線の方程式 1 座標と2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	・数直線上や平面上の2点間の距離を求めることができる。 ・数直線上や平面上の内分点・外分点の座標を求めることができる。また、三角形の重心の座標を求めることができる。 ・直線の傾きと切片について理解し、1点と傾きや、2点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる。	7	
	2 学期中間考査		1	
	2節 円の方程式 1 円の方程式 2 円と直線	・与えられた条件から円の方程式を求めたり、円の方程式から円の中心の座標と半径を求めたりすることができる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。	6	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	3節 軌跡と領域 1 軌跡 2 不等式の表す領域 3 連立不等式の表す領域	・与えられた条件から軌跡の方程式を求めることができる。 ・不等式が表す領域を図示したり、領域を不等式に表したりすることができる。 ・連立不等式が表す領域を図示することができる。 ・課題学習(2つの物体が同じ大きさに見える場所はどこか)	9	
	2 学期末考査		1	
3 学期	3章 三角関数 1節 三角関数 1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数の相互関係 5 三角関数の性質 6 三角関数のグラフ	・角の概念を一般角まで拡張することについて理解する。 ・弧度法による扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・一般角の三角関数の値を求めることができる。 ・三角関数の相互関係が成り立つことを理解する。 ・三角関数の性質を用いて、三角関数の値を求めることができる。 ・三角関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかきことができる。 ・課題学習(デューラーがかいたサインカーブ)	17	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	学年末考査		1	

計 70 時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・定期的に週末課題、単元のまとめ練習プリントを提出してもらいます。
- ・単元ごとに授業ノートを提出してもらいます。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(休業明けに課題テストを実施します。)

7 授業担当者からの一言

数学Ⅱは1年生で学んだ数学Ⅰをもとに、その内容を発展させたものです。新しい数の広がりや、さまざまな関数やその関数と方程式との関係を学んでいきます。発展的な問題だけでなく、数学Ⅰの内容も取り入れながら問題を何度も練習し、理解を深めていきましょう。もちろん、わからない問題があるときは、遠慮なく質問してください。

教科(科目)	数学A	単位数	2	学年(コース)	2学年(教養)
使用教科書	数学A Essence（東書 数A 703）				
副教材等	なし				

1 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>①基本的な計算を繰り返し練習し、計算力の定着を目指します。</p> <p>②基本的な概念や原理・法則を理解し、繰り返し練習することで、基本的な知識の習得を目指します。</p> <p>③事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度を育成します。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査内容の分析 ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査内容の分析 ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題プリントの提出内容 ・ 授業中の課題への取り組み状況 ・ 授業への出席状況 などから、評価します。
評価方法 内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

学期	単元名 <教材名>	学習活動(指導内容) <主な領域>	時間	評価方法
1 学期	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1 集合 2 集合の要素の個数 3 数え上げの原則 4 順列 5 順列の利用 6 重複順列 7 円順列 8 組合せ 9 組合せの利用	<ul style="list-style-type: none"> 部分集合、共通部分、和集合、空集合、全体集合、補集合などの用語、記号を理解し、記号や図を用いて表すことができる。 補集合、和集合について、集合の要素の個数を求めることができる。 順列の考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる。 円順列について理解し、その総数を求めることができる。 組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。 	9	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	1 学期中間考査		1	
	2節 確率 1 確率の意味 2 確率の計算 3 独立な試行の確率 4 反復試行の確率 5 条件付き確率 6 期待値	<ul style="list-style-type: none"> 試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、基本的な確率を求めることができる。 場合の数を基に、確率を求めることができる。また、確率の加法定理を理解し、和事象の確率を求めることができる。さらに、余事象を利用して確率を求めることができる。 独立な試行の意味を理解し、簡単な独立な試行の確率を求めることができる。 反復試行の意味を理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。 	11	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	1 学期末考査		1	
2 学期	2章 図形の性質 1節 三角形の性質 1 三角形と比 2 角の二等分線と比 3 三角形の重心・外心・内心	<ul style="list-style-type: none"> 三角形と比の定理を理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる。 三角形の重心、外心、内心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 	5	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	2節 円の性質 1 円周角の定理 2 円に内接する四角形 3 円と直線 4 接線と弦のつくる角 5 方べきの定理 6 2つの円	<ul style="list-style-type: none"> 円に内接する四角形の性質を理解し、それを用いて角の大きさを求めることができる。 接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを用いて、角の大きさを求めることができる。 円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる。 	8	
	2 学期中間考査		1	
	3節 空間図形 1 直線や平面の位置関係 2 多面体	<ul style="list-style-type: none"> 2直線、2平面、直線と平面の位置関係を理解する。 多面体、正多面体を理解し、空間図形に対する見方を豊かにする。 	6	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	3章 数学と人間の活動 1節 数える 1 記数法 2 5進法 3 n進法	<ul style="list-style-type: none"> 5進法、10進法の考えを一般化したn進法について理解し、その一例である2進法については、10進法との変換もできるようにする。 	9	
	2 学期末考査		1	
3 学期	2節 測る・量る 1 端数の測定の工夫 2 ユークリッドの互除法 3 ユークリッドの互除法の利用	<ul style="list-style-type: none"> ユークリッドの互除法を理解し、これを用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。 和算に見られる測定の工夫が、ユークリッドの互除法から導かれることについて理解する。 	7	プリント提出 (記述の確認) 小テスト ノート提出 (記述の点検) 授業への取り組み
	3節 位置を示す 1 平面上の位置を示す 2 空間内の位置を示す 3 座標のよさ	<ul style="list-style-type: none"> 平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。 3D CGへの利用を見ることで、空間座標のよさを知る。 	5	
	4節 遊ぶ 1 数で遊ぶ 2 図形で遊ぶ 3 規則性で遊ぶ 4 論理で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 覆面算を解くことで、順序立てて考えることのよさを知る。 カリの三角形について調べることで、座標のよさを知る。 ハノイの塔の問題を解くことで、規則性を考えることのよさを知る。 	5	
	学年末考査		1	

計 70 時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- 定期的な週末課題、単元のまとめ練習プリントを提出してもらいます。
- 単元ごとに授業ノートを提出してもらいます。
- 長期休業中の課題は別途指示します。(休業明けに課題テストを実施します。)

7 授業担当者からの一言

数学Aは高校数学の基礎となる科目です。図形や確率など身近で馴染みのある内容が多いので、ここでしっかりと知識を身につけましょう。まずは授業をよく聞いて、授業ノートの作成等より、確実な内容の理解を目指しましょう。その後は、教科書やプリントで練習問題を解き、知識の定着を図っていきましょう。解いた後は必ず答え合わせをして、正しくできているか確かめましょう。うまくできないときや、わからないときは遠慮せずに質問してください。